



明日に吹く風

前期試験も終わり、夏休みがやってきました！花火大会・海など催し物がいっぱいです。でも、この長期休みが読書にぴったりだと思いませんか？普段「時間がなくて…」そう思っている方、この夏は涼しい図書館で、普段読めない本を手にとってみるのはいかがでしょうか？

図書館サポーター推薦図書

『船を編む』 三浦しをん 1F メインカウンター 【913.6 Mi67】



「玄武書房」に勤める変人編集部員の“まじめ”な馬締光也（四捨五入で 30 歳）が、新しく刊行する辞書「大渡海」の編集メンバーとして辞書編集部に迎え入れられ、個性豊かな編集者たちが、辞書に没頭してゆく姿や、主人公の下宿先の孫娘との少しぎこちない恋愛模様など、どこかホッとするような気持ちや、辞書編集がどのようにされるのか、あの手触りのよい紙はどう選んでいるのかなど、リアリティーのある作品となっています。

また、この作品は 2013 年に映画も公開されており、キャッチコピーは「マジメって、面白い」でした。原作同様映画も評価は高く、第 86 回アカデミー賞(外国語映画部門)日本代表作にも選出されました。原作の再現率も高く、役者さんも豪華俳優陣なため落ち着いた作品です。見ごたえはあると思います。なお、AV ライブラリーにありますのでぜひどうぞ。(A.S)

『聖なる怠け者の冒険』 森見登美彦 朝日新聞出版 1F メインカウンター 【913.6 Mo54】

京都の町に怪人が現れた。虫喰い穴のあいた旧制高校のマントに身を包み、かわいらしい狸の面をつけ困っている人を次々と助け出す正義の味方、「ぼんぼこ仮面」。彼が跡継ぎに目をつけたのは京都郊外にある某科学研究所に勤める小和田君。平日は黙々と仕事に励み、週末は筋金入りの怠け者。平和な日常を求める彼は当然怪人の申し出を断るのだが……。



日本三大祭の一つとして有名な祇園祭の宵山を舞台に果てしなく長い冒険が繰り広げられる本作品。一風変わった愉快なキャラクターも登場し、現実の世界が夢とのギリギリの狭間まで飛躍した京都の夜の深みを垣間見ることができます。テンポよく進むストーリーなので普段本をあまり読むことのない人にとっても読みやすい本だと思います。ぜひ、一度読んでみてください。(S.S)

『小さいおばけ』 オトフリート・プロイスラー作 徳間書店 1F メインカウンター 【943.7 P92】



何百年も前から「フクロウ城」で暮らしている気のいい小さなおばけ。毎日、昼間はぐっすり眠り夜中の 12 時から 1 時までの「おばけ時間」だけ起きて、鍵が 13 個ついた鍵束を操り夜の世界を満喫していた。だがある日突然、どうしても昼の 12 時に目が覚めるようになってしまう。最初こそ喜んだものの、真っ白な体は真っ黒になり、フクロウ城へ帰ることもできなくなったおばけは、町で大騒動を起こす。町で道に迷って「さあ、大変！！」小さいおばけは、夜おばけにもどることができるのでしょうか？

私は、この本の表紙のふわふわしたかわいらしいおばけにひかれて読みました。そしてなんといっても 6 ページにも及ぶ「スウェーデン軍（に扮した人々）」の大打進の絵が必見です！！この暑い夏を、小さいおばけと共に過ごしませんか。ぜひ、読んでみてください。(M.S)